

重要無形民俗文化財

吉祥院六齋念仏



獅子の厄除ステッカー一符は
吉祥院天満宮にごじます

六齋とは、仏典に説く六齋日のことで、普通月の8・14・15・23・29・晦日の六日間をいい、昔は悪鬼が現れて人命をおびやかす不吉な日として人々は精進潔齋して身を慎んだといわれています。六齋念仏は、平安時代に空也上人が、一般民衆に信仰をひろめるため鉦や太鼓をたたいて踊躍念仏をはじめたのが起こりといわれ、のちのこの六齋日に行われるようになったので、六齋念仏と呼ばれるようになったと伝えられます。しかし、室町時代中期頃から次第に風流化し、特に能、狂言、歌舞伎等を取り入れた娯楽性豊かな芸能になり、本来の六齋日とは関わりなく盆の行事として伝承されて来たのが現在の六齋念仏です。

現在、京都市内には十数組の六齋念仏が伝承され、国の重要無形民俗文化財に指定されていますが、そのほとんどが、様々な芸能を持つ芸能的六齋で、空也堂系六齋ともいわれています。

吉祥院六齋念仏は、その代表的なもので、毎年八月二十五日夜に地元の吉祥院天満宮で行われる六齋念仏の奉納は、長い歴史と伝統を持ち、京都の夏を彩る著名行事の一つとして、広く市民や観光客に親しまれています。



吉祥院六齋の起源には様々な説がありますが、平安時代後期の吉祥院天満宮の勅祭に獅子舞を奉納したとや、山崎の合戦に敗れ吉祥院へ逃げて来た後、豊臣方に討たれた明智勢の残党を弔ったのが起こりであると伝えられています。それぞれ時代的な違いはありますが、七月十五日の盂蘭盆は死者を弔い、現世に生きる人々にも楽しみを与える日とされていることから、天満宮の獅子舞奉納と盂蘭盆の戦死者の弔いどが結合して、吉祥院六齋念仏が行われるに至ったと考えられます。

吉祥院六齋の発展は、本来の六齋である念仏に、江戸中期以降、田楽系統の演芸、能、舞踊、歌舞伎、長唄、かつぽれや曲芸的なものを取り入れて、大衆の娯乐的芸能化したことを契機としています。『四ツ太鼓』や『祇園ばやし』等の一連の太鼓ものは、現在でも六齋の基調をなしているものです。

明治時代の吉祥院六齋は、東条・西条・北条・南条（現菅原町）・石原・新田・中河原・嶋など多くの字に

一組ずつの六齋組を持ち、八月二十五日の天満宮夏季大祭の六齋奉納には、その夕方から翌夜明まで、それぞれの組が次々と競演し、境内は立錐の余地もないほどでありました。また、この頃は清水寺、東寺、壬生寺への奉納や、町内をはじめ市内の盆行事への勧進も行われるなど盛況を呈していたようですが、その後の時代の流れの中で各組が次々と消滅していきました。現在の吉祥院六齋は、幾度かの消滅の危機に瀕しながらも地元住民のたゆまざる努力によって唯一残されてきた菅原町の六齋組によって、その伝統が今に伝えられています。近年は小学生を中心に中・高生を交えた子供六齋会が結成され、後継者の育成が計られています。

吉祥院六齋は、永く京都の六齋念仏の中心にあり、昭和二十八年には京都を代表する六齋念仏として国から無形文化財に指定され、昭和五十八年には他の六齋念仏とあわせて重要無形民俗文化財に指定された貴重な文化財です。



安達ヶ原（あだちがはら）

修行僧二人が安達ヶ原の鬼女の家泊まった光景を手踊で見せる芸物。鉦・笛・太鼓の囃子がつき、太鼓がブチ打ちで表現する。



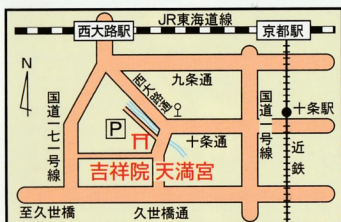
鉦(かね)

吉祥院天満宮

〒601-8331 京都市南区吉祥院政所町3
☎075-691-5303

市バス『吉祥院天満宮前』徒歩3分
『千本十条』から西600m
『西大路九条』から南600m

J R
『西大路駅』
から南1km



4月25日と8月25日は大祭による縁日のため境内に駐車はできません。



吉祥院天満宮拝殿



中太鼓

吉祥院六斎保存会の保持曲目

現在、保持している曲目は数多くありますが、上演中はほとんど無声で、古来から伝わっている唄や詩あるいは拍子を口ずさんで演じます。保持曲目は全部で19種あり、上演には概ね1時間半を要します。現在、主な年中行事として吉祥院天満宮の春季大祭（4月25日）と夏季大祭（8月25日）に奉納されています。（午後8時から）

朝野（あさの）
中央に大太鼓、その左右並び、大太鼓が主奏し、白を囃す。



白ハリ太鼓（豆太鼓）

四ツ太鼓

中太鼓四個を枠にはめて鼓打が一人又は二人でテン鼓を軽妙に打ち分ける。ニブチをかたげて右だけで打つ。また、太鼓を六個に相打ちする「六ツ太鼓」がある。



獅子舞（ししまい）

二人立の獅子舞で、大太鼓の囃子で登場し、地回り、後足立、前足立、獅子返り、肩立ち、孔雀などの曲芸やノミトリなどの所作もある。これが終わると獅子はその場で眠り、「獅子と土蜘蛛」に続く。

- 焼香太鼓（特別曲） 導師を中心に銀太鼓、金太鼓がそれぞれ対向する位置取りで行われる。はじめは坐奏、途中からは太鼓だけ立ち鉦とともに立奏する。六斎念仏中唯一の儀式形態を残すもので、古式の装束（直垂、風折烏帽子）を着用して演じられ、念仏としてその形態をしっかりと伝承して。特別の場合のほかは常には上演しない。
- 回向唄 結願の念仏曲で鉦・太鼓を打って納める。発願に始まり回向唄に終わるのが一山打の本来であるが、上演の都合上、獅子太鼓の前に演じられることが多い。
- 獅子と土蜘蛛 獅子が寝入ると土蜘蛛が現れて獅子とたわむれ、やがて闘争となり、獅子がついに敗れるかたちで終了する。クモの巣（セイと呼ぶ）を豪勢に撒くところが見どころ。（表紙写真）
- 和唐内 和唐内が兵や獅子と立回りの末、それらを屈服させて、都へ引き連れて帰るさまを演じる芸物。鉦・笛・太鼓の囃子がつく。
- 獅子太鼓 「獅子舞」前奏曲。中太鼓が太鼓の打合いを見せ、終わると大太鼓が入って獅子を呼び出す。
- 岩見重太郎 岩見重太郎のヒビ退治を演じる芸物で、鉦・太鼓・笛の囃子が付く。妖怪変化の地舞、妖怪変化と岩見重太郎の立回り、ヒビ（猿）と岩見重太郎の立回りの三段からなる。
- 盛衰記 「鉄輪」と同じ構成で白ハリ太鼓二人ずつが組み、表裏になって相打ちする太鼓曲。リズムも変化に富んだ派手な曲。
- さらし 「鉄輪」と同じ構成で隣合う者が二人一組となり表と裏の掛け合いをする太鼓曲。曲のはじめに一人打のところがあがる。
- 羽衣 白ハリ太鼓が客席に向かって並び、表・裏になって演じる太鼓曲。テンポが最も速く、交互に打ち分けるブチさばきが見どころになる早打曲。難曲の一つ。
- 玉川 演者の位置・構成が「鉄輪」と同じ太鼓曲。笛の変化が美しく、白ブチ太鼓の表打と裏打の掛け合いが変化に富む。